

会議録（概要）

会議名等	令和6年度 第1回四街道市特別支援連携協議会		
年月日	令和6年7月9日（火）	時間	14:00～16:00
場所	四街道市役所第二庁舎第2会議室		
出席者	委員	角田委員 砂川委員 塩田委員 下山委員 松崎委員 岩井委員 高倉委員 渡部委員 浅沼委員 木次委員 神子（代理・岩森）委員 高塚委員 五十嵐委員 小島委員	
	事務局	伊藤課長 金田指導主事 大川指導主事	
欠席者	坂本委員 松島委員		
傍聴人	0人		
<p>—— 会議次第 ——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 教育長挨拶 3 座長・副座長選出 会議録の作成について 傍聴について 4 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各関係機関・団体等における現状と課題について (2) 四街道市の特別支援教育の現状と今年度の取組の重点について (3) その他 5 諸連絡 6 閉会 <p>—— 会議要旨 ——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～3 会議次第に従い進行 伊藤課長 4 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各関係機関・団体等における現状と課題について <p>渡部座長：議題の1点目「各関係機関・団体等における現状と課題について」出席の各委員さんからお話をいただきたい。自己紹介を含めてお一人3分程度でお願いしたい。順番は名簿順でお願いしたい。</p> <p>角田委員：放送大学の角田と申します。昨年度まで専門家チーム委員であった。平成19年度から市教育委員会と一緒に四街道市の特別支援教育の体制づくりを始めた。そのころと比べるとずいぶん変わってきたと感じている。</p> 			

放送大学は通信制の大学である。資格も取れ、大学院の博士課程もある。全国で8万人余りの学生がいる。10代～80代が学んでいる。その中で合理的配慮の申請している学生は1000人余りだが、実際には障がいがあっても申請していない人もいるため、かなりの数の障がいのある学生がいる。最近では試験を自宅でできるようになったため、障がいのある人にとっては貴重な学習の場になっている。課題としては、精神障害、発達障害の人が非常に増えている。認知症の人もあり、障害が極めて重い方や知的障害のある学生さんもいて対応に戸惑うこともある。入試がないので誰でも入れるが、卒業が難しいこともある。しかし、学ぶことが生きがいになっている人もいるため放送大学の役割は大きい。今は、大学と地域、高等学校、教育委員会との連携が大切と言われているため、この連携協議会でも役割をさせていただきたい。

砂川委員：下志津病院小児科の砂川と申します。下志津病院は、小児神経の初診という形で発達障害やそれ以外、例えば不登校や行き詰ったお子さんのことでの医療としての受け皿を担っている。4人くらいの医師が分担をして担当しているが、予約が取りにくい状態である。電話がつながっても2ヶ月後の初診という状況である。なかなか電話がつながらないという現状である。全国的に受け皿が少ない。医療にできることは限られているため、教育、福祉との連携が大切である。受診することがゴールにならないようにしたい。

塩田委員：健康増進課の塩田です。健康増進課の乳幼児センターはお子さんの乳幼児健診や相談に対応している。就学前の子供や保護者の相談を受けている。発達障害の相談が増えており、以前の1.5倍となっている。保護者も早期の対応を求めている。保健センターではグループ支援として、遊びルームというのがあり1回6コースで、臨床心理士と保健師で行っている。保健師と子どもが遊んでいる様子を見ながら、臨床心理士と保護者が話をする。内容が発達に関する相談が増えている。そこで、療育を進めることや保育園や幼稚園との連携方法を相談することもある。ことばの相談というところもあり、言語聴覚士が就学前のお子さん中心に個別相談を受けている。依頼があれば、幼稚園や保育園に出向くこともある。お子さんにあった言葉かけや支援方法を一緒に考えるとといった支援を行っている。

下山委員：障がい者支援課の下山です。昨年度まで千代田保育所の所長であった。相談支援事業所「ひだまり」と「ほほえみ」で相談を受けている。子供向けの相談が増えている。昨年度の件数は839件、令和4年度は691件で1.2倍増えている現状。今後、幼稚園、保育園からひだまり、ほほえみにつながるような働きかけが必要である。

松崎委員：中央保育所の所長である。保育士不足ということもあり定員を満たすことができていない。そのような中で障がいのあるお子さんへの専門的知識がない中、就学に向けてどのように子供の支援をしていくかというところが課題になっている。グリーゾーンの子の支援を必要としている。健康増進課の巡回指導等を依頼したり教育委員会との連携をして相談するところを紹介してもらったりした。対応方法や支援方法を紹介していただけたらと連携をしていきたい。

岩井委員：四街道市児童デイサービスセンターの岩井です。就学前の発達に心配のある子を支援する施設である。現在71名の方と契約を結びながら通所してもらっている状況。通所している児童の大半は幼稚園、保育園と併用しながら利用している。幼稚園、保育園と連携しながら支援をしている。保護者への支援もしている。また、保護者はお子さんが年長になると、就学への不安が出てくる。指導課の就学相談会での資料をいただき共有している。

高倉委員：四街道市学校法人幼稚園協会の会長の高倉です。園ごとの対応となっている。転園の際には引き継ぎをしている。幼稚園協会では特別支援に関する研修をしている。自園では大学の特別支援の専門の先生を呼んで、事例をもとに子どもの理解や保護者への対応を学んでいる。保護者との連携が難しいこともある。そのような中でも先生方で子どもの困り感はどこか等を話し合ったり、園ごとに個別の指導計画を作成したりして保育にあたっている。また就学前に市教育委員会が実際に子どもたちを見る等の幼稚園訪問がある。

渡部座長：和良比小の渡部です。和良比小学校は児童数900名を超えており、支援の必要な子が多い。その子にとっての個別最適な学びとはどのような学びかということ職員一同で考えながら指導にあたっている。R6年度よりLA通級指導教室を設置した。他市の学校の参観をし、研修も行っている。市内の校長会でも特別支援教育の担当をしている。四街道市は1市1部会なので取り組みが進めやすい。中学校区ごとに交流会を進めている。秋には特別支援学級在籍児童生徒の運動会を行っている。振興大会なので、色々な方に見ていただけるようにしていきたい。

浅沼委員：千葉盲学校は県内で1つの盲学校である。千葉県の中でセンター的機能を果たす特別支援学校が他に5校ある。その6校で見えにくさのある児童生徒への教育支援を務めている。県内で情報共有を行えるよう、「あいあいネット」という連携体制を作った。センター的機能を十分に発揮するということでは、視覚障害教

育の専門性の維持向上が課題となっている。常にスキルアップが必要である。また、千葉盲学校は幼稚園、就学前の児童や高校生の支援相談窓口となっている。発達障害としての見えにくさの相談が増えている。支援方法について研修を深めたい。

木次委員：四街道北高校校長の木次です。生徒数約730名、創立40年目、令和2年から保育基礎コースがある。中央保育所にも大変お世話になっている。来年1期生がいよいよ現場に出ていくことになる。特別支援についてはLD・ADHD・ASD・APD、合理的配慮の申請のある生徒がいる。特別支援学校から講師を招いて研修をしている。市であるとこれだけの連携があることがうらやましいと感じた。高等学校としては、中学校との引き継ぎを丁寧にしたい。葛南地区では中高の引き継ぎ会をしていた。北総教育事務所でもお願いしたい。

神子委員（代理 岩森）：ハローワーク千葉所長の神子の代理出席をしております専門援助部門総括の岩森です。ハローワーク千葉は労働者と人を探している事業所の調整機関である。管内には7つの特別支援学校がある。ハローワークが接する求職者とする特別支援学校の生徒となる。昨年度は46名が就職。とても大きな数で昨年度のハローワーク就職者全体の約7%を占めている。課題としては、有効求人倍率が昨年度と比べて下がっている。その中でも仕事を探している生徒に仕事をマッチングさせたい。

高塚委員：北総教育事務所の高塚です。毎年会議が開催され、連携が深まっていると感じる。北総地区はすべての学校に特別支援学級が設置されてる。経験の浅い担任が増えている。併せて、通常の学級の先生方の専門性を高めてほしいということもあり、学校全体で専門性の向上が求められる。各市町教育委員会、県立学校、各機関との連携を深めながら専門性の向上を図り、児童生徒の関わり方を深めていきたい。

五十嵐委員：発達支援サークルすてっぷ代表の五十嵐です。松浦先生に誘われ、平成19年度の本会議に参加。当時はコスモに参加していた。その後、「すてっぷ」を立ち上げた。24組の親子が参加している。コロナで活動が中断していた。会のメンバーの子が大きくなっていて、形を変えてきた。設立時は学齢期の悩み事を話し合うのがメインだったが、悩みが就労、居場所、親亡き後等に変化してきている。先日、相談支援事業所のほほえみを招いて勉強会をした。

小島委員：クレパスの会から来た小島です。会員の年齢層が幅広い。特別支援学校の子も通常の学級の子もいる。会の半分は就労している。先輩たちがいて心強い。コロ

ナを挟んで会員の状況も変わり、集まる人が減っている。就労・進路のことなどを先輩に相談できて良い。以前は施設見学も行っていたがコロナにより活動ができなくなってしまった。本日の連携協議会での情報を会の中でも共有したいと考えている。

渡部座長：質問や意見があればお願いしたい。

角田委員：LA 学級の LA とは何か。

渡部座長：LD と ADHD のことである。

通常の学級在籍だが、感情の表現がうまくできない子等の支援をする場。「かけはし学級」とつけた。

角田委員：位置付けは通級指導教室か。

渡部座長：その通り。

事務局：今年度開設した。本市では LA 通級指導教室の担当は 1 人しかいないため、他市の LA 教室の参観等をし、教室環境、授業の仕方、支援方法等を学んでいる。

五十嵐委員：渡部委員と浅沼委員と岩森委員に質問。

渡部委員へは不登校の子への対応について聞きたい。

浅沼委員へは小さい子の相談の仕方はどうしたら良いか。

岩森委員へは市内で探すとなると数が少ない。その時にハローワークでは相談に乗ってもらえるのか。

渡部座長：不登校の子が増えている。家庭的な状況、発達障害により集団に入りにくい等様々である。家庭訪問しながらコミュニケーションを取るようにしている。学校には来ているが、保護者から離れられない子もいる。管理職と特別支援学級担任等で効果的な支援について検討している。また不登校の対応として希望があればリモートでも学習ができるようにしている。

浅沼委員：年齢問わず教育相談を受けている。学校に行っている子は学校を通してもらっている。小さい子も教育相談を受けられる。連絡時に視覚支援センターの担当者と言っただけであれば繋がる。高校生だと大学受験の時の配慮申請の相談もある。大人については、本校に、はり、灸、マッサージの資格を取れる理療科がある。

そちらの相談については理療科の相談員が対応する。生活の困り等は視覚障害者協会を紹介することもある。

五十嵐委員：発達障害に関する検査はしているか。

浅沼委員：検査は実施しない。見え方の支援等のアドバイスを行っている。

岩森委員：ハローワークでの対象となるのはA型についての紹介が可能。

B型については就労という形での紹介行為がない。ただ、B型の機関についても合うものがあればご案内することもある。A型事業所についても、ハローワークは求人をして紹介することができるため求人がないと難しい。四街道市だと数は少ない。通勤するという事で千葉市まで出られると選択肢が広がってくる。というところがある。

五十嵐委員：駅から離れているところだと難しいことがある。

以前、個別の相談というのがあったが、自分に自信がないという心理的な相談ができる窓口は今でもあるか。

岩森委員：具体的には設けていないが、就労に向けての心理的な相談というのがあある場合、精神発達雇用サポーターというのがあり個別の相談をしながら就職に結びつけていくといった制度がある。手帳のあるなしに関わらず相談可能。

(2) 四街道市の特別支援教育の現状と今年度の取組について

事務局：事務局より説明

渡部座長：質問、意見はあるか。

高倉委員：専門家チームの巡回相談は年長児のみか。

事務局：その通り。

高倉委員：それ以外の子についてはどうか。

事務局：特別支援学校のセンター的機能を活用してほしい。

高倉委員：市教育委員会からそのことについて市内全体にアナウンスしてほしい。

浅沼委員：盲学校では周知活動をしている。

事務局：連絡会議でも幼稚園・保育所（園）に伝えている。保幼小連携教育研修会でも周知している。

五十嵐委員：今、保育園に勤めている。園での子供の様子を早いうちに見ていただくことは大切であるとする。

事務局：以前からご指摘いただいている。就学前のお子さんの相談場所についてははっきりしていないということが本市の課題でもある。関係各課会議でも話題にしていきたい。

木次委員：県立特別支援学校に在籍している子の数は把握しているか。入っていると全体像が分かりやすい。

事務局：検討していく。

（3） その他

事務局：資料はなし。口頭での説明する。四街道市青い麦の子振興ふれあい運動会について説明する。四街道市では小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒が一堂に会して、四街道総合公園体育館で運動会を行うなどして親交を深めている。令和5年度は対面での交流会を再開し、四街道総合公園にて久しぶりに参集の形で開催をした。低中高学年・中学生別の個人走や、玉入れ、ダンス等を行い、児童も保護者も他校の児童生徒との関わりにとっても楽しく充実した時間を過ごすことができた。

今年度も10月16日（水）に四街道総合公園体育館にて開催を予定している。今年度は、四街道市の特別支援教育の振興を図るため、来賓の招待者を増やして開催する予定となっている。委員の皆様にもご案内をする。ぜひ参観をしていただきたい。9月上旬までにはご案内する。よろしくお願ひしたい。

渡部座長：今の件について質問はあるか。

質問がなければ本日予定していた議題はすべて終了した。座長の任を解かせていただく。事務局にお返りする。

5 諸連絡

事務局：第2回特別支援連携協議会は、令和7年2月14日（金）14：00から、四街道市役所第二庁舎2階第二会議室での実施を予定している。

6 閉会

事務局：それでは、これで第1回特別支援連携協議会を閉会する。